

掲示用

平成29年の交通事故統計分析結果

～車籍別・事業用トラックが第1当事者となった死亡事故～



全日本トラック協会はこのほど、事業用トラックが第1当事者となった死亡事故件数を、都道府県ナンバー別(車籍別)に1万台当たりの数値に換算し、平成26年～29年の4か年の推移を示したデータを公表した。

それによると、全国平均では、26年が2.7件、27年が2.5件と年々減少傾向をみせ、28年に引き続き29年も2.1となったが、全ト協は「トラック事業における総合安全プラン2020」において、死亡事故件数目標を全国平均で車両1万台当たり「1.5件」に設定しており、今後、各都道府県トラック協会においては、数値目標を達成できるよう、さらなる交通事故

防止対策に取り組むことが求められる。

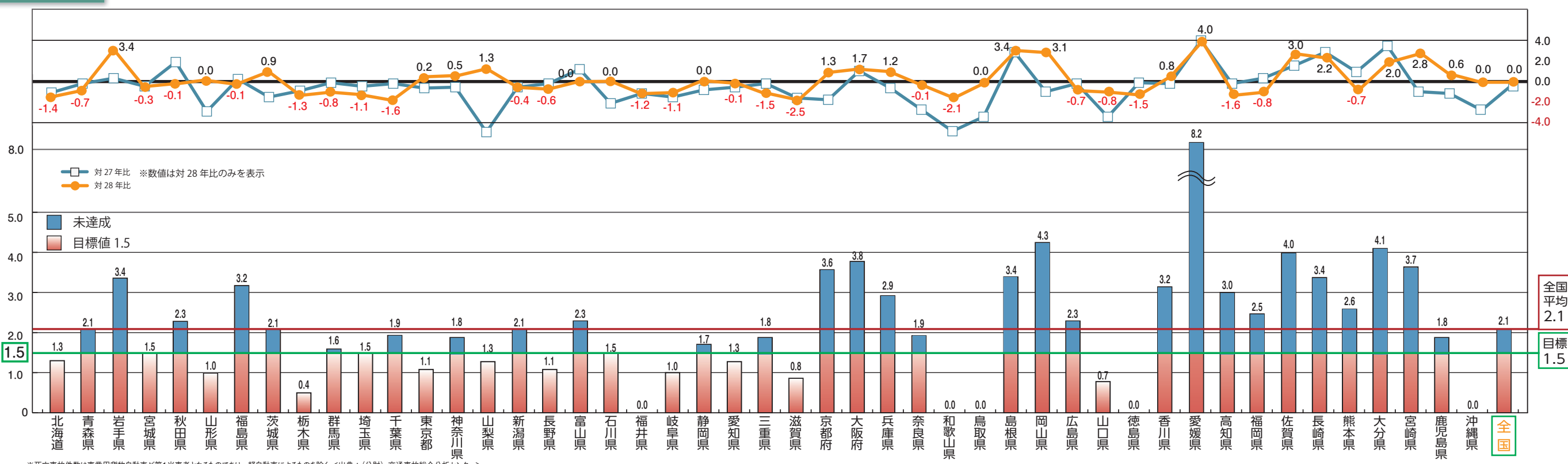
データを都道府県別にみると1.5件の数値目標をクリアできたのは18都道県で、特に福井県、和歌山県、鳥取県、徳島県、沖縄県はゼロを達成し、鳥取県と沖縄県は2年連続。

車籍別の発生状況では、車籍地(県内)での死亡事故は107件、他県での死亡事故は163件となっている。

なお、このデータは全ト協ホームページ内「平成29年の交通事故統計分析結果(確定版)」に掲載されており、ダウンロードが可能。

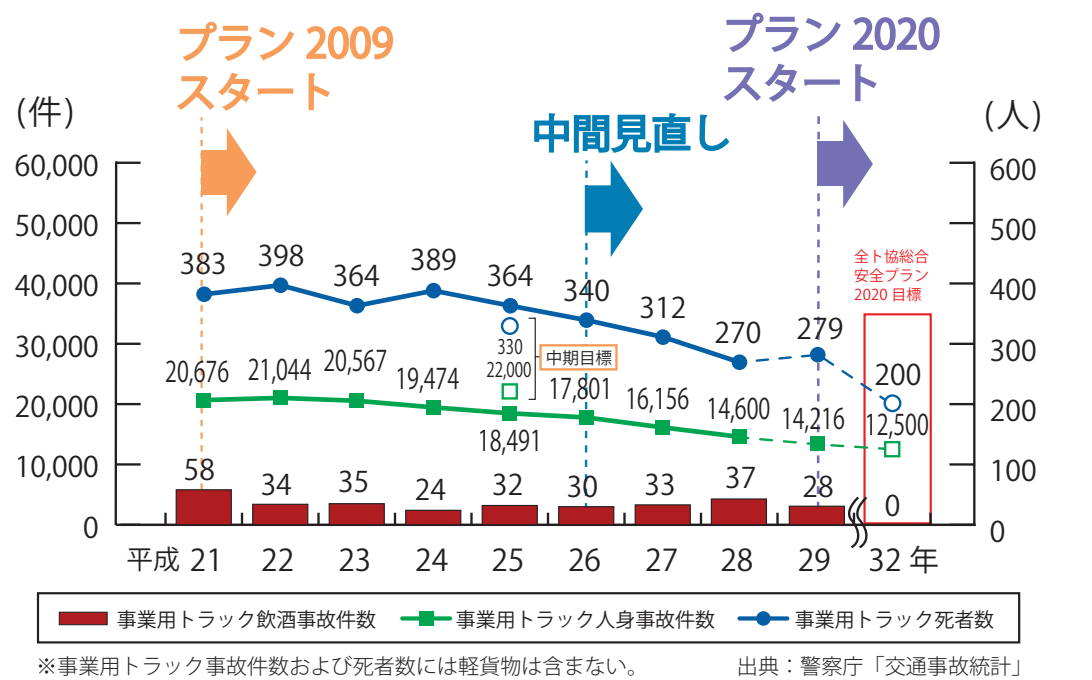
車籍別

車両1万台当たりの死亡事故件数



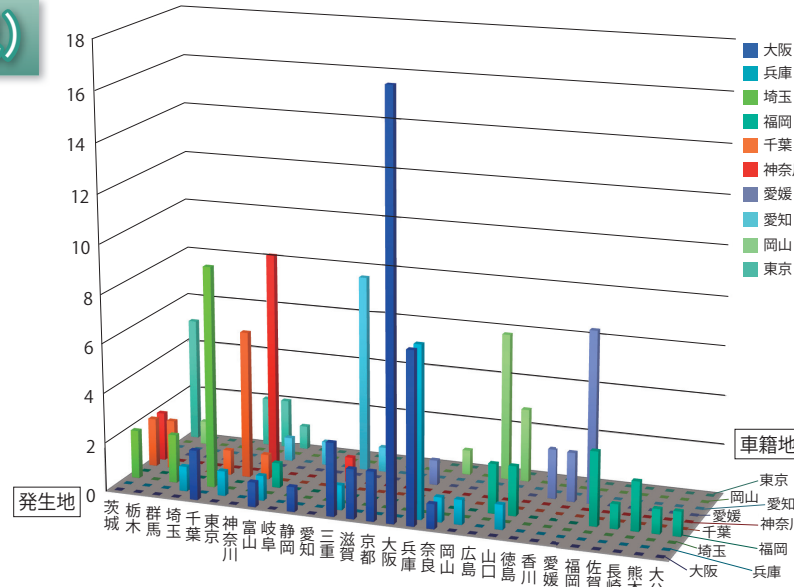
「トラック事業における総合安全プラン2020」と目標値達成状況

人身事故件数が減少傾向にある中で、飲酒運転による交通事故件数も減少したが、死者数は増加となっている。特に、死者数は5年ぶりに増加しており、関係者一丸となって事故防止対策に取り組む必要がある。



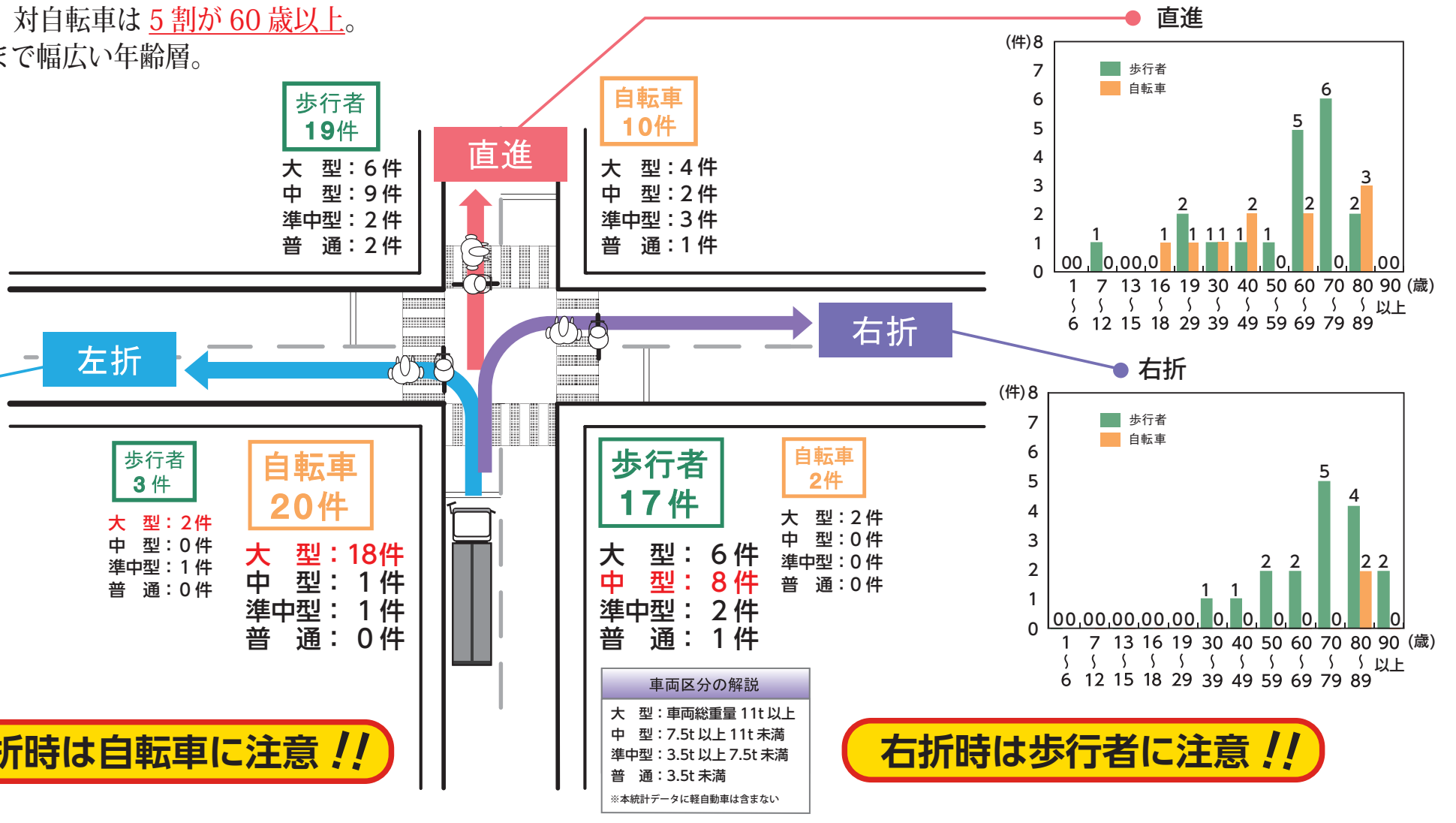
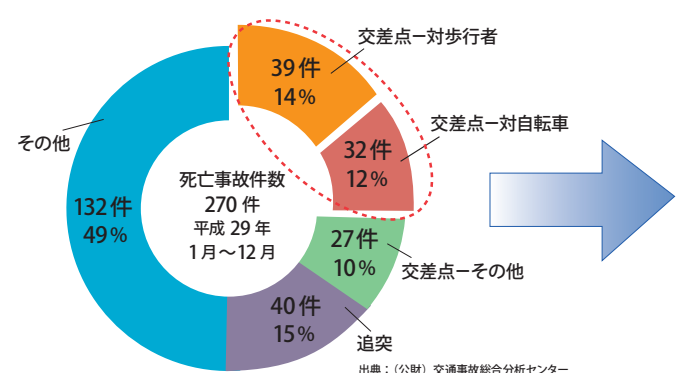
死亡事故データ(車籍別発生状況)

ワースト順位	車籍地	件数	割合(%)	発生地内訳(件)	他県発生率(%)	
1	大阪	36	13.3	17	19	52.8
2	兵庫	14	5.2	7	7	50.0
3	埼玉	13	4.8	0	13	100.0
3	福岡	13	4.8	3	10	76.9
5	千葉	12	4.4	1	11	91.7
5	神奈川	12	4.4	9	3	25.0
5	愛媛	12	4.4	7	5	41.7
8	愛知	11	4.1	8	3	27.3
8	岡山	11	4.1	6	5	45.5
10	東京	10	3.7	2	8	80.0
11	北海道	9	3.3	9	0	0.0
11	茨城	9	3.3	1	8	88.9
13	京都	8	3.0	4	4	50.0
14	福岡	7	2.6	5	2	28.6
14	静岡	7	2.6	0	7	100.0
14	広島	7	2.6	3	4	57.1
14	その他	79	29.3	25	54	68.4
合計		270	100.0	107	163	60.4



交差点における死亡事故(対歩行者・対自転車別)

- ・直進時の死亡事故：対歩行者は約7割が60歳以上、対自転車は5割が60歳以上。
- ・左折時の死亡事故：対自転車は小学生から70歳代まで幅広い年齢層。
- ・右折時の死亡事故：対歩行者は約8割が60歳以上。



左折時は自転車に注意!!

右折時は歩行者に注意!!